

資料紹介

# 郵政博物館保管 近現代絵画目録稿(1)

## — 逋信省発行記念絵葉書原画・逋信省関係者肖像画 —

郵政歴史文化研究会 第6分科会

### 1 調査の趣旨と経過

本稿は、現在郵政博物館（以下「当館」という）が管理する、明治時代以来の逋信事業の中で制作された絵画資料について、その基礎的な情報を公開し、広く学術的、社会的な利用の参考に供しようとするものである。当館管理の絵画資料は歴大で、その全体像を把握するためには、かなりの期間が見込まれる。そのため将来の本格的な目録公開、刊行を視野に入れつつ、調査を終えたものから順次、目録稿本として本誌に掲載する。今回の対象は、逋信省が発行した記念絵葉書の原画と逋信事業関係者の肖像画、計23点である。

調査は2022年度から2023年度にかけて、郵政博物館が設けた郵政歴史文化研究会 第六分科会の田良島哲（東京国立博物館：分科会主査）、杉山伸也（慶應義塾大学）、吉田暁子（東京文化財研究所）と郵政博物館職員が行い、大澤真理子氏（府中市美術館）の参加を得た。

### 2 逋信省による絵葉書発行の沿革と原画

逋信省が発行した絵葉書で昭和時代前期までのものは、1934（昭和9）年11月に逋信博物館で開催された特別展覧「郵便絵葉書の展覧会」を機に刊行された『逋信省発行の記念郵便絵葉書』（逋信協会、1934年）で、その沿革と発行状況を確認することができる。また、発行の当事者であった樋畑雪湖の『日本絵葉書史潮』（日本郵券倶楽部、1936年、以下『史潮』という）でも、意匠図案の考案や制作の現場を活写している。ここでは主に両著によりながら、絵葉書原画の成り立ちを概観する。

1900（明治33）年に日本国内で私製郵便葉書の使用が許可されると、西欧での流行に倣って絵葉書を作成する者が多く現れた。この状況を見た逋信省当局は、国家的な記念行事に際して官製の絵葉書を制作販売することを計画した。最初の記念絵葉書発行は、1902年の万国郵便連合加盟二十五周年記念で、同年6月の祝典に合わせて1組（6枚）が発行された。以来、第二次大戦中から戦後の官庁再編を経て1949年に郵政省が発足するまでの間、たびたび記念絵葉書が発行された。

絵葉書には装飾枠の中に写真や挿画を配したものと、絵画を主体としたものがあり、後者の場合、画家や逋信省職員による原画が作成された。画家による原画の初例は、日露戦争時の「明治三十七八年戦役第四回絵葉書」の中の一枚で、水師營の会見の様子を小山正太郎（1857-1916）が描いたものである（5031-001）。日露戦争期の絵葉書の図案は大半が写真を版に起こしたもののだが、樋畑によれば、提供された陸軍写真班撮影の水師營の写真は「外交史上に特記すべき劇的シーンを表現せんにはあまりに物足りない気がした」（『史潮』p. 50）ため、画家への委嘱を思い立ち、陸軍と関係のあった小山を選んだという。ちなみに、印刷の際に絵に重

ねられた「戦役記念」の四文字（図1）は、近代を代表する書家、西川春洞（1847-1915）の揮毫である。

この時期、絵葉書の原画制作に当たった通信博物館の考証の綿密さは徹底しており、中世の武士を描いた「中古凱旋式図」（整理番号：5031-002。以下の記述

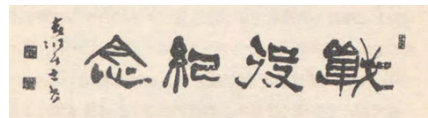


図1 西川春洞「戦役記念」（『日本絵葉書史潮』p. 81）

と同様）では、武器や武家の故実に詳しい東京帝室博物館の高橋健自と故実家関保之助の二人に指導を仰いだ。実際に鎧を東京美術学校から、服装を東京帝室博物館から借用し、着装した状態で、原図となる写真を帝室博物館の写場で撮影している（『史潮』pp. 82-29）。この写真を東京印刷会社の技師（画工）であった清水三壽が原画に起こした。また大正大礼の記念絵葉書（5031-003、004）制作の際には、通信博物館図案部の職員を総動員して京都御所内の式場を隈なく撮影し、さらに儀式の予行を確認した上で、館員小代為重が描画にかかっている（『史潮』pp. 133-136）。図案の選定に当たって省外の有識者を加えた委員会で検討することもあった。第一次大戦の終戦を記念した1919（大正8）年の平和記念絵葉書（5031-007、008）では、正木直彦（東京美術学校長）、塚本靖（東京帝大教授・建築学）、岡田三郎助（東京美術学校教授）といった人々が委員として招かれている（『史潮』pp. 139-140）。

当館保管の絵葉書原画でもう一つ注目されるのは、1943年12月の「大東亜戦争記念報国葉書第一輯」の原画が残されている点である。この絵葉書は「ハワイ真珠湾強襲」（吉岡堅二）、「香港黄泥涌高射砲陣地奪取」（小磯良平）、「シンガポール英軍の降伏」（宮本三郎）の3枚1組であったが、後者2枚の原画（5031-012、013）が現存している。

### 3 通信省関係者の肖像画

当館は、第二次大戦前に通信大臣や通信次官を務めた人物の油彩の肖像画を所蔵する。制作の経緯については『通信協会雑誌』などに記事が載ることがあり、そこから判断すると、当該人物の退官後または没後に関係者がその功績を讃えるために何らかの事業を起こすことを提起して寄附金を募り、集まった寄附金の一部で画家に肖像画制作を委嘱、残金は事業に充てる、というケースが一般的である。一例として、通信次官を務めた大橋八郎の肖像画（AKQ-0010）に関する記事を示す。

#### 大橋八郎氏肖像画完成

昭和十一年退官された通信次官大橋八郎氏の在官中に於ける御功績を、永く記念すると共に、同氏の御尽力に対し、部内職員の総意を以て感謝の意を表する為め、曩に部内一般より醸金を募り、其の一部にて同氏の肖像画を作成し、他の一部は有意義なる施設の資金に充つる計画の下に、当時大橋記念施設資金の創設を見ましたこと等は、各位の既に御承知の通りであります。当時肖像画については、藤島武二画伯<sup>（せつりき）</sup>に依嘱しましたが、今般その完成を見、通信博物館に搬入、同氏の御功績と共に永く保存らるることになりました（『通信協会雑誌』昭和14年10月号、p. 92）。

記事に見える収支からは、肖像画制作に充てられた額は寄附金総額のごく一部であり、募集の主たる意図は施設整備や関係者への表彰などの事業で、肖像画は従であったことがわかる。委嘱を受けた画家のうち、清水良雄（1891-1954）は、東京美術学校卒、帝展審査員をしばしば務め、光風会会員となった（「清水良雄」『日本美術年鑑』昭和30年版、p. 171）。聖徳記念

絵画館壁画で「靖国神社行幸」を手がけている。

(田良島 哲)

## 目録凡例

—目録は以下の順序で、各記述項目の内容を示した。

- \* 郵政博物館整理番号
- \* 資料名称（関連資料で名称の確定できないものは、調査者が〔 〕で囲んだ仮の名称を付した）
- \* 作者
- \* 素材・技法 寸法
- \* 制作年代
- \* サイン、落款等、作者を示す記述
- \* 備考：絵葉書原画＝利用された絵葉書名／肖像画＝像主の略伝、伝来を示す資料、参考文献等

—作者の著作権保護期間が満了している作品については、画像を掲載した。著作権保護期間内の作品については、法令上の課題を整理した上で、当館から画像の公開を図りたい。

5031-001

水師営会見図

小山正太郎

水彩、紙 縦34.2cm 横44.5cm

1905（明治38）年

明治三十七八年戦役第四回絵葉書



5031-002

中古凱旋式図

清水三壽

紙本墨画 縦18.8cm 横26.2cm

1905（明治38）年

明治三十七八年戦役陸軍凱旋大観兵式記念絵葉書  
(乙)



5031-005

即位礼紫宸殿御式場図

小代為重

水彩・紙 縦17.9cm 横28.0cm

1915（大正4）年

大正大礼記念絵葉書



5031-006

太平楽図

吉川霊華

紙本着色 縦22.7cm 横35.8cm

1915（大正4）年

（落款）「（朱方印）『準』」

大正大礼記念絵葉書



5031-007

少年少女と鳩図

鏑木清方

絹本着色 縦27.5cm 横17.8cm

1919（大正8）年

（落款）「清方（朱文方印・印文未詳）」

平和記念絵葉書



5031-008

収穫図

南薫造

水彩、紙 縦11.8cm 横16.4cm

1919（大正8）年

（サイン）「南薫 1919」

平和記念絵葉書

5031-009

五節舞図

結城素明

絹本着色 縦17.5cm 横28.2cm

1928（昭和3）年

昭和大礼記念絵葉書



5031-010

即位礼紫宸殿図

岡田三郎助

1928（昭和3）年

油彩・キャンバス 縦18.2cm 横28.4cm

昭和大礼記念絵葉書



5031-011

遷宮儀式図

吉田豊

水彩、紙 縦17.4cm 横29.0cm

1929（昭和4）年

神宮式年遷宮記念絵葉書

\* 吉田豊は逓信省技手、逓信博物館職員。



5031-012

香港黄泥涌高射砲陣地奪取図

小磯良平

油彩・キャンバス 縦59.3cm 横71.5cm

1943（昭和18）年

（サイン）「二六〇三年 良平作」

大東亜戦争記念報国葉書 第一輯

5031-013

シンガポール英軍の降伏

宮本三郎

油彩・キャンバス 縦51.5cm 横71.4cm

1943（昭和18）年

（サイン）「二六〇三 三郎画」

大東亜戦争記念報国葉書 第一輯

5031-014

不尽

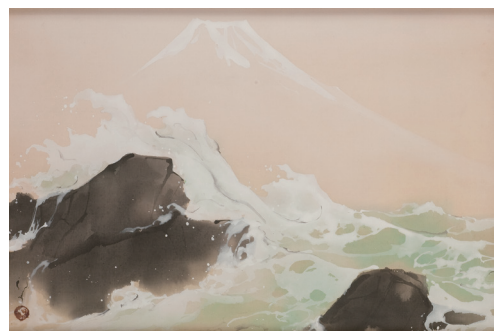
川端龍子

絹本着色 縦45.6cm 横69.2cm

1946（昭和21）年

（落款）「龍子（白文朱円印・印文未詳）」

日本国憲法公布記念絵葉書



5031-015

迎日

藤田嗣治

油彩・キャンバス 縦32.0cm 41.4cm

1946（昭和21）年

（サイン）「foujita」

日本国憲法公布記念絵葉書

---

5031-016

平和

石井柏亭

油彩・キャンバス 縦32.4cm 横44.2cm

1946（昭和21）年

（サイン）「Hakutei 1946」

日本国憲法公布記念絵葉書



5031-017

融

上村松園

絹本着色 縦37.3cm 横48.7cm

昭和時代・20世紀

（落款）「松園（白文朱方印）『常子』」

絵葉書（不発行）



5031-018

上高地

川合玉堂

絹本着色 縦42.4cm 横56.0cm

昭和時代・20世紀

（落款）「玉堂（朱文方印）『玉堂』」

絵葉書（不発行）



---

5031-019

〔編もの〕

宮本三郎

油彩・キャンバス 縦59.4cm 横44.2cm

昭和時代・20世紀

(サイン)「SABURO・M」

絵葉書(不発行)

---

AKQ-0005

内田嘉吉像

清水良雄

油彩・キャンバス 縦63.6cm 横51.3cm

1934(昭和9)年

(サイン)「Shimidzu Yoshio Showa 9 May」

内田嘉吉(1866-1933):官僚。逓信省管船局長、台湾総督府民政長官、逓信次官を経て台湾総督。退官後、日本無線電信社長。



---

AKQ-0006

小松謙次郎像

清水良雄

油彩・キャンバス 縦63.1cm 横51.4cm

1934(昭和9)年

(サイン)「Shimidzu Yoshio Showa 9 May」

小松謙次郎(1864-1932):官僚、政治家。司法省を経て逓信省通信局長、逓信次官、貴族院議員。1924年清浦奎吾内閣で鉄道大臣。



AKQ-0007

池田十三郎像

(作者未詳)

油彩・キャンバス 縦78.4cm 横63.2cm

(年代未詳)

池田十三郎 (1870-1947)：官僚：韓国統監府通信局長官、朝鮮総督府通信監理局長官、同通信局長官等を歴任。



AKQ-0008

樋畑雪湖像

岡田三郎助

油彩・キャンバス 縦78.3cm 横63.6cm

1927 (昭和2)年

(サイン)「S. Okada 1927」

樋畑雪湖 (1858-1943)：本名正太郎。信濃松代の出身。1885 (明治18)年に逓信省に入り、郵便博物館 (逓信博物館)で資料の収集と切手・葉書原画制作などに従事して、現在の郵政博物館コレクションの基礎を築いた。



AKQ-0009

南弘像

藤島武二

油彩・キャンバス 縦69.8cm 横59.0cm

昭和時代・20世紀

(サイン)「T. Fdisima」

南弘 (1869-1946)：官僚、政治家。福岡県知事、西園寺内閣書記官長を務め、1912年貴族院勅選議員。文部次官、台湾総督、逓信大臣を歴任した後、枢密顧問官。





---

AKQ-0010

大橋八郎像

藤島武二

油彩・キャンバス 縦71.2cm 横59.0cm

1939（昭和14）年

（サイン）「T. Fdisima」

大橋八郎（1885-1967）：官僚。逓信省郵務局長、経理局長、  
逓信次官を歴任。岡田内閣法制局長官、林内閣書記官長。貴  
族院勅選議員。第二次大戦終戦時の日本放送協会会長。大戦  
後は日本電信電話公社総裁を務めた。



（ゆうせいれきしぶんかけんきゅうかい だいろくぶんかかい）